

## 抑草剤

理研

ショートキープ<sup>®</sup>液剤

イネ科主体の美しい植生へと導く、  
雑草管理のニュースタンダード!!

現在、<sup>のりめん</sup>法面等における草刈り作業の省力・軽減化が強く求められています。このような声にお応えするため、『除草剤』のように雑草の全体を枯殺するのではなく、雑草の草丈を短く抑制することで景観を守り、かつ根を生かして土壌の流亡（法面の崩壊）を防ぐことのできる『新しい管理方法＝抑草剤』として、理研ショートキープ液剤を開発しました。

河川、道路、鉄道の路肩・法面等の画期的な雑草管理製品として評価（国土交通省が運用する「新技術情報システム（NETIS）」に登録）をいただいております。

また、ゴルフ場などの芝地に発生するスズメノカタビラ対策として本剤は広く使用され、景観向上にも貢献しています。

<sup>®</sup>は登録商標

# 抑草剤 理研 ショートキープ<sup>®</sup>液剤 の特長



- 「除草剤」ではなく、「抑草剤」です。

ショートキープ液剤は、雑草を「すべからく枯殺」するのではなく、「草丈を一定以上に伸長させない」という、今までにない「草丈を抑える作用」を持っています。

- 道路・鉄道・水路の<sup>のりめん</sup>法面等での草刈り回数や作業労力を軽減できます。

雑草の生育を抑制するため、危険をとまなう草刈り作業の回数軽減、刈り草の除去等の経費および労力の軽減ができます。

- 路肩等の裸地化を防ぐため、崩壊防止や景観の維持ができます。

雑草をすべて枯殺する非選択制除草剤とは異なり、草丈を抑える作用を示すため、裸地化による土壌流亡を防ぎ、路肩の崩壊防止や景観維持に貢献します。

- 広範囲の雑草に効果が優れ、難防除雑草にも有効です。

一年生雑草から多年生雑草まで広範囲の雑草に対して効果があります。有効成分が主に莖葉部から吸収されますので、雑草生育期(草丈30~50cm)の使用が特に有効です。

- つる性雑草などの生育抑制にも効果があります。

防除の難しいクズなどのつる性雑草に対し、枯殺または強い生育抑制作用を示します。

- スズメノカタビラの出穂抑制に効果があります。

ゴルフ場の寒地型芝草(ベントグラスやブルーグラス)内に侵入し、景観を損ね、プレーの邪魔になるスズメノカタビラの出穂を効果的に抑制します。

- 環境に対する安全性

人畜・環境への影響がきわめて低く、有効成分の投下薬量も少ない薬剤です。

## 上手な使い方

ショートキープ液剤は雑草の生育期(草丈30~50cm)に散布することにより高い効果を示しますが、より安定した効果と安全性を確保するために、使用方法及び使用上の注意を守るとともに、次の点に注意してください。

### 散布適期

- 雑草が生えそろっていない場合や、雑草が大きくなりすぎた場合(草丈50cm以上)には十分な効果は期待できませんので、散布時期に注意してください。
- 雑草は気象条件や地域により発生時期や生育スピードが異なる場合がありますので、草丈が30~50cmになる頃を目安として散布してください。
- 残効が無くなった場合、雑草再伸長初期に2回目の散布をしてください。
- 地域により異なりますが、草丈30~50cmになったときが散布時期です。
- 雑草の生えそろった時期に散布してください。

4月			5月			7月			8月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	適期	散布最適期	適期			適期	散布最適期	適期			

### 均一に散布

莖葉部より吸収されて効果を発揮します。かけ残しや散布ムラのないよう、均一に散布すると一層効果的です。

### 散布方法

1㎡あたり0.7~1mlの薬量を、1㎡あたり100mlの水量で、噴霧器を用いて散布してください。基本的に、散布には通常散布用のノズルを使用してください。少量散布専用ノズルを使用する場合は、1㎡あたり30mlの水量で散布してください。

# スズメノカタビラの出穂抑制



散布時期は桜の開花時期、花木の開花時期等を目安にして決めてください。  
スズメノカタビラの出穂後では効果が劣る場合があります。出穂前から散布を開始してください。

## スズメノカタビラの出穂抑制の事例

### (1)フェアウェイでの使用方法

4月			5月			6月			7月		
上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ショートキープ						バイオロック					
期間内に2回散布											

### (2)グリーンでの使用方法 ●一般的地域(関東以北)の散布パターン

4月			5月			6月			7月		
出穂期			開花ピーク期								
散布			散布			散布					
ショートキープ						バイオロック					

#### ■安全に使用するために

- 初めて使用する場合には、まず小面積での試験にとどめ、薬剤の特徴を確認してください。
- 均一散布できる散布器具をご使用ください。
- 重複散布を避けるためエクセロン等の着色剤を加用してください。
- 薬剤散布直後の灌水は控えてください。
- 薬剤散布後の更新作業は控えてください。(薬害)
- 夏期高温時には使用しないでください。(薬害)
- 低温期(秋期・早春)には使用しないでください。(薬害)
- ベントグラスがストレス状態(高温、乾燥、根上り等)の時には使用しないでください。(薬害)

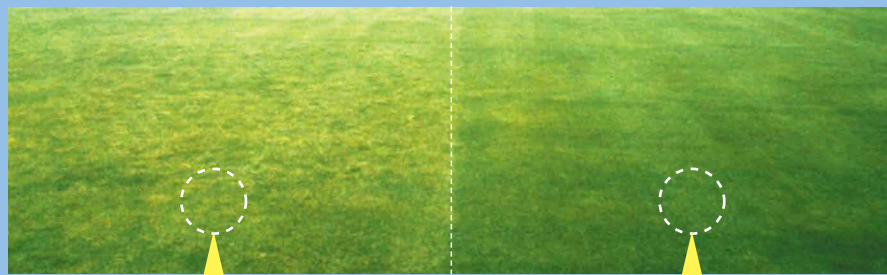
#### ■使用上の注意事項

- 本剤はスズメノカタビラの出穂前に有効なので、時期を失しないように散布してください。
- ターフ形成前の芝には薬害を生じるおそれがあるので、ターフ形成後の芝生に使用してください。
- 夏期高温時や強い踏圧を受けるなど、芝の生育が停滞する条件下では薬害を生じるおそれがあるので使用を避けてください。
- 本剤を連続して使用する場合は、散布間隔を2週間以上あけて使用し、芝生が黄変している場合には使用を避けてください。
- 本剤は散布後に芝に黄変や芝の育成を抑制することがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の育成に対する影響は認められていません。

本剤は立地条件や芝草の生育状況により効果・薬害が異なりますので、ご使用前に必ず試験機関もしくは弊社にご相談ください。

## ショートキープ液剤散布16日後

無散布区にはスズメノカタビラの出穂が目立つが、散布区では認められない。



無散布区

散布区



拡大

スズメノカタビラの出穂が目立つ。



拡大

スズメノカタビラの出穂抑制効果発現中。

# 作用機作

理研ショートキープ液剤は植物の莖葉部から吸収され、植物体内の分岐鎖アミノ酸(バリン、ロイシン、イソロイシン)の生合成に関与するアセト乳酸合成酵素(ALS)を阻害します。

# 抑草スペクトラム

## イネ科雑草に対する効果

社内試験および委託試験結果より

草種		薬量ml/m <sup>2</sup>			処理時期(目安)		症状
		1.0	0.5	0.3	雑草の状態	草丈	
イネ科	メヒシバ	○	△	×	生育期	30cm	変色・生育抑制
	エノコログサ	●	○	×	生育期	30cm	変色・生育抑制
	オヒシバ	○	×	×	生育期	20cm	変色・生育抑制
	スズメノカタビラ	●	●	◎	生育期	15cm	枯殺
	キシュウスズメノヒエ	◎	◎	○	生育期	30cm	変色・生育抑制
	ススキ	◎	◎	○	出穂直前	30cm	変色・生育抑制
	オギ	○	○	△	刈取後	30cm	変色・生育抑制
	チガヤ刈取後再生	◎	○	○	刈取後	10cm	変色・生育抑制
	チガヤ生育個体	△	×	×	生育期	20cm	変色・生育抑制
	メリケンカルカヤ	●	◎	△	生育期	30cm	枯殺
	イタリアンライグラス(ホソムギ)	△	△	×	生育期	15cm	要高薬量
	カラスムギ	×	×	×	生育期	10~20cm	不効
	カモジグサ	×	×	×	生育期	10~20cm	不効
	トールフェスク	○	○	△	生育期	10cm	変色・生育抑制
	ウィーピングラブグラス	×	×	×	生育期	40cm	不効
	オーチャードグラス	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	ノシバ	○	○	△	生育期	2cm	変色・生育抑制
ギョウギシバ	○	○	△	刈取後	15cm	変色・生育抑制	
アズマネザサ	△	△	△	生育期	10~20cm	変色・生育抑制	

表示方法 ●: 枯殺~91%を抑制、◎: 90~70%を抑制、○: 69~50%を抑制、△: 49~30%を抑制、×: 29%以下を抑制

## 広葉雑草に対する効果

社内試験および委託試験結果より

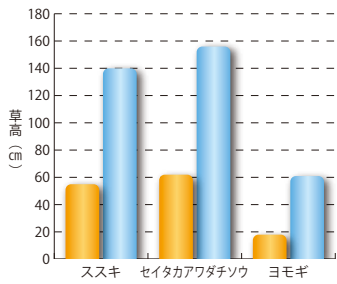
草種		薬量ml/m <sup>2</sup>			処理時期(目安)		症状
		1.0	0.5	0.3	雑草の状態	草丈	
アカザ科	シロザ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
アブラナ科	タネツケバナ	×	×	×	生育期	20cm	不効
イラクサ科	カラムシ	●	●	●	生育期		枯殺
オオバコ科	オオバコ	○	○	△	生育期	10cm	変色・生育抑制
カヤツリグサ科	コゴメガヤツリ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	ハマスゲ	○	○	△	生育期	10~20cm	変色・生育抑制
キク科	ヒメムカシヨモギ	◎	○	○	生育期	ロゼット葉	変色・生育抑制
	オオアレチノギク	◎	○	○	生育期	10~20cm	変色・生育抑制
	ハルジオン	◎	◎	○	生育期	10~20cm	変色・生育抑制
	ヨメナ	◎	○	○	生育期	10~20cm	変色・生育抑制
	オナモミ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	コセンダングサ	○	○	△	生育期	15cm	変色・生育抑制
	ブタクサ	●	●	●	生育期	15cm	枯殺
	ハキダメギク	◎	◎	◎	生育期	20cm	変色・生育抑制
	カミツレ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	セイタカアワダチソウ	●	●	●	生育期	20cm	枯殺
	セイタカアワダチソウ	◎	◎	◎	生育期	50cm	変色・生育抑制
	ヨモギ	◎	◎	◎	生育期	25cm	変色・生育抑制
タデ科	キクイモ	●	●	●	生育期		枯殺
	オオキンケイギク	●	●	○	生育期	20cm	枯殺
	オオイヌタデ	●	◎	◎	生育期	25cm	地上部枯殺後回復
	エゾノギシギシ	●	●	●	生育期	ロゼット葉	枯殺
	イタドリ	○	×	×	生育期		変色・生育抑制
ツユクサ科	ツユクサ	◎	○	◎	生育期	1 m	変色・生育抑制
	ツユクサ	●	◎	◎	生育期	20cm	変色・生育抑制
トクサ科	スギナ	◎	◎	◎	生育期	20cm	変色・生育抑制
ナス科	イヌホオズキ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	シロバナチョウセンアサガオ	◎	◎	◎	生育期	15cm	変色・生育抑制
ナデシコ科	オランダミミナグサ	●	●	●	生育期	20cm	枯殺
	ハコベ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
ヒユ科	アオビユ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	×	×	×	生育期	10cm	不効
マメ科	クサネム	●	●	●	生育期	50cm	枯殺
	ニセアカシア	●	○	○	生育期	< 150cm	枯殺
	クズ	●	●	◎	生育期	つる 4 m	枯殺
	カラスノエンドウ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	ヤハズソウ	●	●	●	生育期	10cm	枯殺
	シロツメクサ	●	◎	○	生育期	10cm	変色・生育抑制

表示方法 ●: 枯殺~91%を抑制、◎: 90~70%を抑制、○: 69~50%を抑制、△: 49~30%を抑制、×: 29%以下を抑制  
(注)低温期(11月~3月)の散布では効果が劣ることがあります。植物の生育が盛んな時期(生育期)に散布してください。

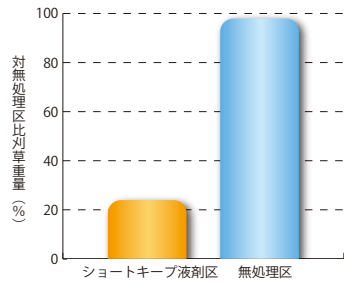
# 管理労力の軽減効果

日本植物調節研究協会 研究所

## ■草高抑制効果



## ■刈草軽減効果



試験地：鉄道のり面 傾斜角度約30度

薬剤処理日：4月27日、6月27日

調査日：草高(処理4ヶ月後)、刈草重量(処理5ヶ月後)

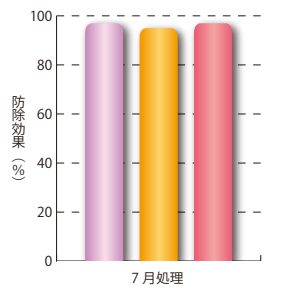
試験結果：ススキ、セイタカアワダチソウおよびヨモギに対して、40~50%の抑草効果が認められた。また、刈り取り調査の結果、刈草重量は無処理区の32%であった。

■ シヨートキープ液剤 0.7ml/m<sup>2</sup> (散布水量100ml/m<sup>2</sup>)  
■ 無処理区

# ■クズおよびニセアカシアに対する効果

日本植物調節研究協会 委託試験結果

## ■クズ



試験地：休耕地

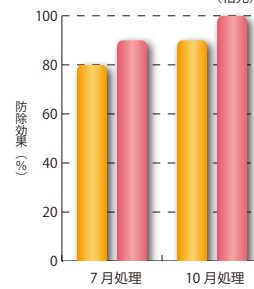
薬剤処理日：7月23日

調査日：処理2ヶ月後

試験結果：0.5~0.1ml/m<sup>2</sup>処理により90%以上の高い防除効果が認められた。

■ シヨートキープ液剤 0.5ml/m<sup>2</sup>  
■ シヨートキープ液剤 0.7ml/m<sup>2</sup>  
■ シヨートキープ液剤 1.0ml/m<sup>2</sup>

## ■ニセアカシア



試験地：鉄道のり面

薬剤処理日：7月24日、10月23日(別試験区)

調査日：7月処理(3ヶ月後)

試験結果：10月処理(7ヶ月後翌春)0.7、1.0ml/m<sup>2</sup>処理により80%以上の防除効果が認められ、10月処理の1.0ml/m<sup>2</sup>では枯死に到達した。

■ シヨートキープ液剤 0.7ml/m<sup>2</sup>  
■ シヨートキープ液剤 1.0ml/m<sup>2</sup>

# 有効成分と安全性

## ■有効成分・物理化学的性状

一般名：ビスピリバクナトリウム塩 含有量：3.0%

性状：淡黄色澄明水溶性液体 蒸気圧：5.04×10<sup>-9</sup> Pa (25℃) 水溶解度：73.3 g/l (25℃)

## ■安全性(製剤)

人畜毒性：普通物(*)		水産動植物に対する影響	
急性経口(LD <sub>50</sub> )	雌雄 >2000mg/kg	コイLC <sub>50</sub> (96hr)	58 (mg/l)
急性経皮(LD <sub>50</sub> )	雌雄 >2000mg/kg	オオミジンコEC <sub>50</sub> (48hr)	96 (mg/l)
皮膚刺激性	無刺激性	藻類 E <sub>6</sub> C <sub>50</sub> (0-72hr)	26 (mg/l)
眼刺激性	軽度刺激性	E <sub>7</sub> C <sub>50</sub> (0-72hr)	121 (mg/l)
皮膚感受性	陰性		

(\*: 毒劇物に該当しないものを指している通称)

## ■有用生物に対する安全性(原体)

鳥類	マゴモ	LD <sub>50</sub>
	コリンウズラ	>5620mg/kg
	ミツバチ	混餌LD <sub>50</sub> >200 μg a.i./頭 接触LC <sub>50</sub> >70,000ppm
	カイコ	1000ppm死亡例無
	カイコ(製剤)	500ppm(a.i.換算)を桑に散布した際の安全日数は1日
	ミミズ	LC <sub>50</sub> (14日) >1000mg/kg

# 有用植物に対する影響

シヨートキープ液剤はドリフトにより、周辺作物に対して薬害などの影響を及ぼす可能性があります。

散布の際には、飛散防止ノズル(少量散布ノズル)を使用するなど特にドリフトには注意してください。

## ■理研シヨートキープ液剤に対する有用植物の感受性(実用量500~1000ml/10aのすべてが付着した場合)

感受性	区分	作物名	薬害症状
高	果樹	カンキツ、リンゴ、ブドウ、ナシ、モモ	黄化・落葉→枯死
	野菜	イチゴ、トウモロコシ、ダイズ、アズキ、ビート、ニンジン、トマト、シュンギク、ダイコン、ハクサイ、キャベツ	赤化→枯死
	樹木	ナワシログルミ	黄化→落葉
		クチナシ、イヌツゲ、モッコク	黄化→枯死
		アベリア、レンギョウ、ハコネツツギ、アジサイ、シャリンバイ、キョウチクトウ、トウネズミモチ、モチノキ、ヤマモモ	枯死
			葉脈赤化→枯死
中	果樹	チャ、オウトウ	変色→生育停止→回復
	野菜	サツマイモ、姫毛芋、キュウリ、ネギ	変色→回復
	樹木	オオムラサキ	黄化・赤化
低	果樹	ウメ	変色→生育停止→回復
	作物	イネ、コムギ、デントコーン	変色→回復
	樹木	ユキナヤギ、ネズミモチ	黄化
無	樹木	ニシギキ、マテバシイ、クロガネモチ、サザンカ、ヒイラギ、ヒイラギモクセイ	

★製剤500ml/10aのうち10% (製剤50ml/10a) がドリフトした場合

- ①感受性の高いグループは、散布後90日たってもかなりの薬害が残り、被害が大きと考えられます。これらの植物が近接して移植・栽培されている場合には使用を避けてください。
- ②感受性が中程度のグループは、散布後50~60日後より薬害が回復し始める傾向がありますが、収量に影響が出る可能性が大きいため特にドリフトには十分注意してください。
- ③感受性が比較的低いグループは、ドリフトにより葉色の変化が認められますが散布50~60日後には目立たなくなります。

# 使用場面別効果

## 鉄道用地での効果

散布：5月3日  
6月10日

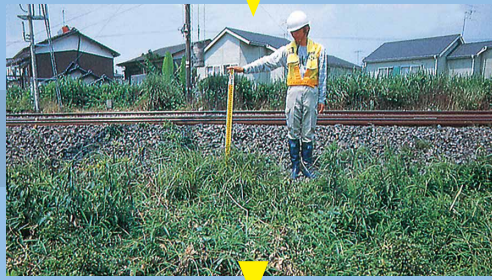
ショートキープ液剤0.7ml/m<sup>2</sup> 2回散布区  
(散布水量100ml/m<sup>2</sup>)

無散布区

散布61日後  
(7月3日)



散布90日後  
(8月1日)



散布152日後  
(10月1日)



日本植物調節剤研究会 研究所

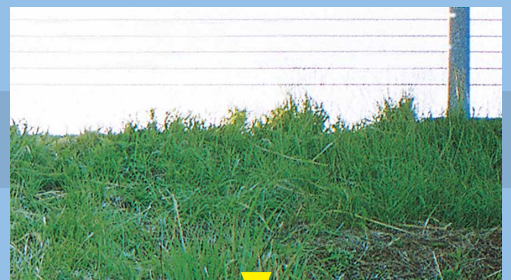
## 高速道路のり面での効果

散布：5月3日  
6月10日

ショートキープ液剤1.0ml/m<sup>2</sup> 散布区  
(散布水量100ml/m<sup>2</sup>)

無散布区

散布(5月10日)



散布1ヶ月後



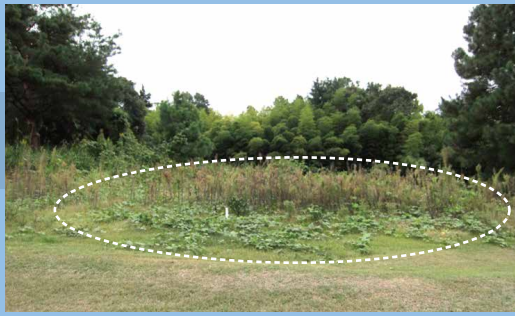
散布2ヶ月後



株式会社理研グリーン東京支店

のしば(法面)での使用事例

11月1日  
(処理後)

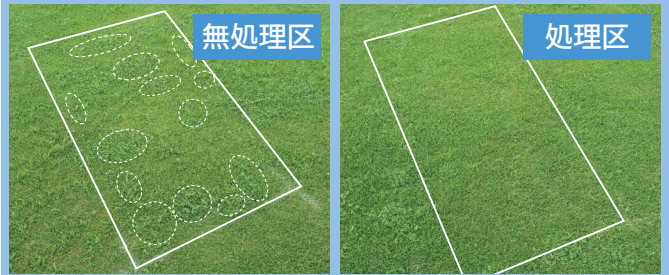


翌年  
8月12日



供試薬剤: 0.8ml/m<sup>2</sup>  
 処 理 日: 10月20日  
 調 査 日: 翌年8月12日  
 対象雑草: クズ、セイタカアワダチソウ  
 ラフ刈りと一緒に刈込を実施  
 翌年の多年生雑草等の発生が減少

ヤハズソウに対する効果



供試薬量: 0.75ml/m<sup>2</sup> 調 査 日: 9月16日(処理31日後)  
 処 理 日: 8月16日 検 査 場 所: 弊社グリーン研究所(コウライシバ)

メリケンカルカヤに対する効果



供試薬量: 0.75ml/m<sup>2</sup>  
 処 理 日: 7月1日  
 調 査 日: 7月29日(処理28日後)

散布区 無散布区

2006年  
10月12日



2008年  
7月24日



散布1回目 0.75ml/m<sup>2</sup> 2006年10月12日  
 散布2、3回目 1.0ml/m<sup>2</sup> 2007年5月29日、10月23日  
 散布4回目 0.75ml/m<sup>2</sup> 2008年5月20日

散布水量150ml/m<sup>2</sup>

無散布区 散布区

2007年  
7月24日



2008年  
9月11日



散布1回目 1.0ml/m<sup>2</sup> 2007年7月24日  
 散布2回目 1.0ml/m<sup>2</sup> 2008年6月12日

散布水量200ml/m<sup>2</sup>

# 適用雑草と使用方法

(2016年9月現在)

作物名	適用場所	適用雑草名	使用目的	使用時期	使用量		使用方法	本剤およびビスピリバクナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
					薬量	希釈水量		
樹木等	公園、庭園 堤とう、駐車場 道路、運動場 宅地、のり面 鉄道等	一年生及び 多年生雑草	草丈抑制による 刈り取り軽減	雑草生育期 又は刈取後 (草丈30～50cm)	0.5～ 1.0ml/m <sup>2</sup>	通常散布 100～ 200ml/m <sup>2</sup> 少量散布 25～ 50ml/m <sup>2</sup>	植栽地を除く 樹木等の周辺 地に雑草茎葉 散布	3回以内
日本芝	—	一年生 及び多年生 広葉雑草	—	春夏期芝生育期 (雑草生育期)	0.75～ 1.0ml/m <sup>2</sup>	100～ 200ml/m <sup>2</sup>	雑草茎葉散布	
日本芝 (のしば)		メリケンカルカヤ	春夏期芝生育期 (メリケンカルカヤ生育期)					
西洋芝 (ベントグラス、 ブルーグラス)		スズメノカタビラ	スズメノカタビラ の出穂抑制	芝生育期 (スズメノカタビラ 出穂前まで)	0.1～ 0.2ml/m <sup>2</sup>			

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		使用方法	本剤およびビスピリバクナトリウム塩を含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量		
樹木等	公園、庭園 堤とう、駐車場 道路、運動場 宅地、のり面 鉄道等	ニセアカシア	雑草生育期又は 刈り取り後再生期 (草丈150cm以下)	1.0ml/m <sup>2</sup>	100～ 200ml/m <sup>2</sup>	植栽地を除く 樹木等の周辺地 に雑草茎葉散布	3回以内
		クズ	雑草生育期	0.5～1.0ml/m <sup>2</sup>			
林木	林地		クズ	雑草生育初期 (5～6月)	つる径 使用(ml/株) 2.0cm以下 …… 0.5 2.1～3.0cm …… 1.0 3.1～4.0cm …… 1.5 4.1～5.0cm …… 2.0 5.1cm以上 …… 適宜増量	原液	

## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 展着剤加用の必要はありません。
- 西洋芝(ベントグラス、ブルーグラス)のスズメノカタビラ出穂抑制に使用する場合は次の事項に注意してください。
  - ① 本剤はスズメノカタビラの出穂前に有効なので、時期を失ないように散布してください。
  - ② ターフ形成前の芝には薬害を生じるおそれがあるので、ターフ形成後の芝生に使用してください。
  - ③ 夏期高温時や強い踏圧を受けるなど、芝生の生育が停滞する条件では薬害が生じる恐れがあるので使用をさけてください。
  - ④ 本剤を連続して使用する場合は、散布間隔を2週間以上あけて使用し、芝生が黄変している場合には使用をさけてください。
  - ⑤ 本剤は散布後に芝に黄変や芝の生育を抑制することがありますが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 日本芝に使用する場合、散布後に黄変や生育を抑制することがありますが、一過性のもので、次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていません。
- 日本芝(のしば)のメリケンカルカヤに対して反復処理する場合は、散布間隔を約40日あけてください。
- 雑草の生育期に薬液が雑草の茎葉全体に均一にかかるようにしてください。また、雑草が大きくなりすぎると効果が低減するので時期を失ないように散布してください。
- 公園、堤とう等において、体系で処理する場合、2回目の処理は1回目処理後、40～50日後に実施してください。
- 散布後6時間以内の降雨は効果を減らすことがあるので、天候を見極めてから散布してください。
- 低温下では効果の発現が遅れることがあります。
- 雑草の種類によっては効果が変動する場合があります。
- クズのつる注入処理をする場合には次のことに注意してください。
  - ① 処理位置は、株元から50cm以内とし、刃物等で外皮を木質部が見える位に剥皮して、薬液が十分付着するように滴下してください。
  - ② 株頭が大きく、複数のつるが出ているものは、すべてのつるに薬液を処理してください。

- 作物及び有用植栽木の茎葉部へ薬液が飛散した場合、葉の黄化、落葉、枯死等の薬害が発生するので、田畑、果樹園等の周辺では流入、飛散に十分注意してください。
- 散布や調製に使用した器具・ホース等は水洗い、水通しをしてください。
- 散布器具、容器の洗浄水及び残りの薬液は河川等に流さず、容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 水源地等に本剤が飛散・流入しないように注意してください。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

## ⚠ 安全使用上の注意

- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 使用の際は保護眼鏡、農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするともに洗眼してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中および散布後(少なくとも散布当日)に小児や動物に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

製造販売元  株式会社 理研グリーン  
 〒110-8520 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8F  
 TEL.03(6802)8571 FAX.03(6802)8577 http://www.rikengreen.co.jp

札幌駐在 TEL.011(595)7401 FAX.011(595)7402  
 仙台支店 TEL.022(222)9599 FAX.022(267)6505  
 東京支店 TEL.03(6802)8943 FAX.03(6802)8953  
 静岡支店 TEL.054(283)0691 FAX.054(291)4261  
 名古屋支店 TEL.052(218)3060 FAX.052(218)3061  
 大阪支店 TEL.06(6871)1691 FAX.06(6871)1811  
 福岡営業所 (大阪支店にて代行受付)  
 グリーン研究所 TEL.0538(58)1282 FAX.0538(58)1714  
 福田工場 TEL.0538(55)5108 FAX.0538(55)5104